

# 25年のグローバル市場は株式優位の展開続くか



チーフ・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 世界経済は良好さを維持する公算

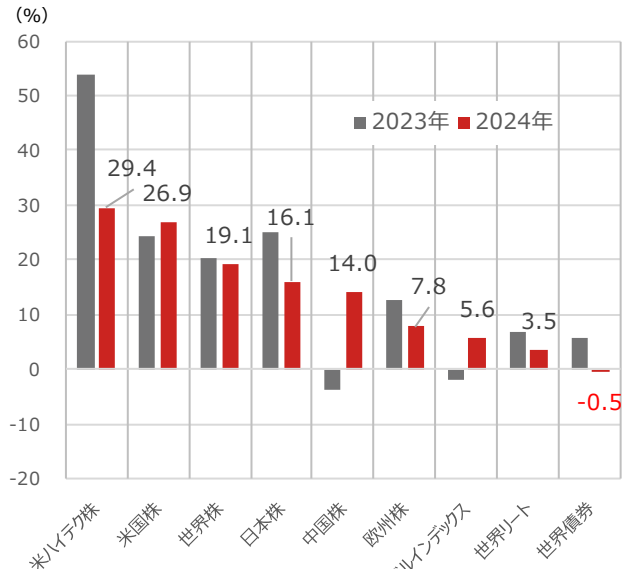
24年のグローバル市場は、世界的な利下げを背景に、リスク選好の動きが強い1年となりました。とりわけ株式への資金流入が続き、昨年同様ハイテク株を中心に米国株の上昇が目立ちました。半面、米経済の想定以上の強さを受けて金利が高止まりしたことから、債券やリートなどが相対的に冴えない動きとなりました（右上図）。

25年のグローバル市場を見る上では、緩やかな経済成長とインフレ鈍化が併存する「適温経済」が持続するかが焦点となります。インフレが緩やかに鈍化する中、各中央銀行の利下げにより、G7の政策金利合計値はピークから低下基調にあります。一方、G20のOECD（経済協力開発機構）景気先行指数は足元で上昇基調を強めており、世界経済は良好な環境を維持しているとみられます（右下図）。

## ポイント② 株式は上昇の公算もペースは緩やかに

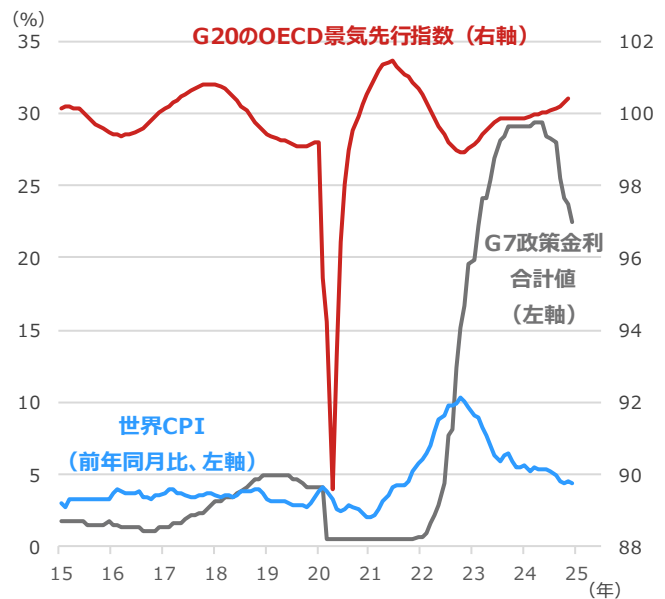
ただ、世界一の経済大国である米国の経済が想定以上に強いこともあり、25年は利下げ一巡の年になると考えられます。米国では早期利下げ停止観測が強まっており、債券については米国債よりも景況感の弱さから相対的な利下げ余地が大きいとみられる欧州債などが選好される展開が想定されます。株式については上昇基調が続く可能性が高いとみていますが、23年、24年と期待先行で大きく上昇してきたこともあり、上昇率は鈍化しそうです。米国株の直近の12ヵ月先予想PER（株価収益率）は約22倍と過去10年平均の約18倍を大きく上回っています。バリュエーションの観点からは、脱デフレや企業改革の進展期待など独自の買い材料があり、同PERが過去10年平均程度にある日本株（直近約15倍）が相対的に優位な動きとなる可能性もありそうです。

世界主要指数の年間騰落率



期間：2023年～2024年（2024年は12月13日まで）  
 ・米ハイテク株はNASDAQ100、米国株はS&P500種株価指数、世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）、日本株はTOPIX（東証株価指数）、中国株は上海総合指数、欧州株はSTOXX欧州600、世界リートはS&P Global REIT Index（米ドルベース）、世界債券はBloomberg Global Aggregate Index（米ドルベース）  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## G20（主要20カ国）のOECD景気先行指数 ・G7政策金利合計値・世界CPI（消費者物価指数）



期間：（G20のOECD景気先行指数）2015年1月～2024年11月、月次（その他）2015年1月末～2024年12月13日、月次  
 ・世界CPIは世界全体に占める各国のGDP比率で加重平均（Bloomberg算出）  
 ・G7（主要7カ国）政策金利合計値：米国、ユーロ圏（ドイツ、フランス、イタリア）、日本、英国、カナダの政策金利合計値  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

# 野村アセットマネジメントからのお知らせ

## ■ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

## ■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

## ■投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2024年12月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

### 当資料で使用した指数について

- 「TOPIX（東証株価指数）」に係る標準又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など「TOPIX（東証株価指数）」に関するすべての権利・ノウハウ及び「TOPIX（東証株価指数）」に係る標準又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、「TOPIX（東証株価指数）」の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。
- 「S&P500種株価指数」、「S&P Global REIT Index」はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標です。
- MSCI All Country World IndexはMSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「Bloomberg®」は、Bloomberg Finance L.P.および、同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limitedをはじめとする関連会社（以下、総称して「ブルームバーグ」）の商標およびサービスマークです。ブルームバーグまたはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。
- STOXX®欧州600指数は、STOXXリミテッド（スイス、ツーク）、ドイツ取引所グループ又は同社のライセンサーの知的財産（商標登録を含みます）であり、ライセンスの下で使用されます。